

## 平成 20 年度都道府県別原料血漿確保目標量（案）について

## 計算の考え方

1. 平成 17 年の国勢調査結果による都道府県別の人口から目標量を計算  
(試算 1)
  - (1) 昼間人口比率により、平成 20 年度の原料血漿確保目標量の半数(50,000 リットル)を按分で割当て
  - (2) 献血可能人口(16 歳～69 歳)比率により、同目標量の半数(50,000 リットル)を按分で割当て
  - (3) 上記の合計を目標量とする。
2. 平成 19 年度の目標量に 20 年度目標量の伸び率を乗じて目標量とする  
(試算 2)

## 20 年度の伸び率

$$100 \text{ 万 L} / 97 \text{ 万 L} = 103.09\%$$

3. 試算 1 の計算結果を基準に、試算 2 の計算結果を調整し、都道府県別の目標量とする。  
試算 1 による計算結果の 96% 以上 105% 以内での調整とした。

平成20年度原料血漿確保目標量(案) (100万L)

	平成18年度 確保実績	平成19年度 目標量	20年度目標 量 試算①	20年度目標量 試算②		試算①と ②の差	20年度 目標量	備考
			平成17年国 勢調査データ による目標量 試算	平成19年度目 標量 100.97 (103.1%)	試算①に 対する割 合			
北海道	44,987	44,438	44,150	45,812	103.8%	-1,662	44,150	
大阪府	70,607	70,616	71,650	72,800	101.6%	-1,150	71,650	
長崎県	11,065	11,459	11,250	11,813	105.0%	-563	11,250	
熊本県	15,392	14,073	14,000	14,508	103.6%	-508	14,000	
徳島県	8,535	8,777	8,700	9,048	104.0%	-348	8,700	
大分県	8,727	9,281	9,250	9,568	103.4%	-318	9,250	
山口県	10,427	11,301	11,350	11,851	102.6%	-301	11,350	
高知県	6,020	6,111	6,000	6,300	105.0%	-300	6,000	
長野県	16,631	16,442	16,700	16,951	101.5%	-251	16,700	
福岡県	42,419	38,461	39,450	39,651	100.5%	-201	39,450	
埼玉県	48,596	51,653	53,200	53,251	100.1%	-51	53,200	
京都府	20,707	20,273	20,350	20,900	100.2%	-50	20,350	
宮城県	16,991	17,897	18,450	18,451	100.0%	-1	18,450	
茨城県	18,358	22,359	23,050	23,051	100.0%	-1	23,050	
島根県	5,707	5,384	5,550	5,551	100.0%	-1	5,550	
鹿島県	5,998	5,966	6,150	6,151	100.0%	-1	6,150	
鳥取県	4,612	4,511	4,650	4,651	100.0%	-1	4,650	
徳山県	7,910	8,294	8,550	8,551	100.0%	-1	8,550	
栃木県	12,270	15,278	15,750	15,751	100.0%	-1	15,750	
岩手県	9,236	10,185	10,500	10,500	100.0%	0	10,500	
和歌山県	5,781	7,566	7,800	7,800	100.0%	0	7,800	
兵庫県	36,298	41,322	42,600	42,600	100.0%	0	42,600	
岡山県	14,268	14,550	15,000	15,000	100.0%	0	15,000	
石川県	8,956	8,827	9,100	9,100	100.0%	0	9,100	
佐賀県	福岡県に含む	6,402	6,600	6,600	100.0%	0	6,600	
山梨県	6,363	6,596	6,800	6,800	100.0%	0	6,800	
東京都	101,212	107,088	110,400	110,400	100.0%	0	110,400	
新潟県	18,022	17,994	18,600	18,551	99.7%	49	18,600	
香川県	7,299	7,518	7,800	7,751	99.4%	49	7,800	
福井県	6,139	6,063	6,300	6,251	99.2%	49	6,300	
青森県	11,103	10,719	11,100	11,051	99.6%	49	11,100	
山形県	7,130	8,876	9,200	9,151	99.5%	49	9,200	
宮崎県	8,491	8,488	8,800	8,751	99.4%	49	8,800	
佐賀県	8,773	10,234	10,600	10,551	99.5%	49	10,600	
鹿児島県	12,946	12,804	13,250	13,200	99.6%	50	13,250	
愛媛県	11,098	10,864	11,250	11,200	99.6%	50	11,250	
広島県	28,244	21,631	22,350	22,300	99.8%	50	22,350	
岐阜県	15,721	15,520	16,050	16,000	99.7%	50	16,050	
静岡県	29,897	28,615	29,550	29,500	99.8%	50	29,550	
奈良県	10,423	10,137	10,550	10,451	99.1%	99	10,550	
群馬県	15,588	15,181	15,750	15,651	99.4%	99	15,750	
高知県	14,660	15,423	16,000	15,900	99.4%	100	16,000	
三重県	13,338	13,774	14,200	14,200	99.3%	100	14,300	
愛知県	54,116	55,824	57,850	57,551	99.5%	299	57,850	
沖縄県	10,023	9,879	10,500	10,185	97.0%	315	10,500	
千葉県	38,668	42,858	45,650	44,184	96.8%	1,466	45,650	
徳島県	58,961	62,711	67,050	64,651	96.4%	2,399	67,050	
計	928,823	970,223	1,000,000	1,000,230			1,000,000	

## 平成18年度需給計画の実施状況（報告）

平成18年度の需給計画の実施状況について、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第26条第3項の規定を踏まえ、以下のとおり報告する。

1. 平成18年度に国内において製造され、又は輸入されるべきとした血液製剤の種類及び量の目標と実績

16製剤のうち、アルブミン製剤等11製剤で目標量を上回ったが、他は目標に及ばなかった。

主要3製剤

アルブミン：106.1%　人免疫グロブリン：100.3%

血液凝固第Ⅷ因子（遺伝子組換え型を含む）：87.5%

（製造・輸入量実績は、別表の①欄のとおり）

2. 平成18年度に原料血漿から製造されるべきとした血液製剤の種類及び量の目標と実績

国内献血由来の原料血漿から製造された11製剤のうち、アルブミン製剤等10製剤で目標を達成した。

主要3製剤

アルブミン：114.2%　人免疫グロブリン：102.8%

血液凝固第Ⅷ因子（遺伝子組換え型を除く）：93.8%

（製造量実績は、別表の②欄のとおり）

3. 平成18年度に必要と見込んだ血液製剤の種類及び量と供給実績

16製剤のうち、アルブミン製剤等9製剤の供給量が見込量を上回ったが、他は見込量を下回った。

主要3製剤

アルブミン：100.9%　人免疫グロブリン：107.0%

血液凝固第Ⅷ因子（遺伝子組換え型を含む）：93.2%

（供給量実績は、別表の③欄のとおり）

4. 平成18年度の原料血漿確保目標量と実績

平成18年度においては、確保目標量をほぼ達成した。

確保目標量　93.0万リットル

確保量　92.9万リットル（達成率99.9%）

## 5. 原料血漿の配分計画量と実績

各血液製剤の製造業者への原料血漿配分量は以下のとおり。

	配分計画量	実 績
(財) 化学及血清療法研究所		
凝固因子製剤用	23.0万リットル	23.0万リットル
その他の分画用	5.0万リットル	5.0万リットル
日本製薬株式会社		
その他の分画用	13.0万リットル	16.0万リットル
中間原料PⅡ+Ⅲ	6.0万リットル相当	6.0万リットル相当
株式会社マネリス		
凝固因子製剤用	0.3万リットル	0.3万リットル
その他の分画用	23.7万リットル	23.7万リットル
中間原料PⅣ-1	26.0万リットル相当	26.0万リットル相当
中間原料PⅣ-4	15.0万リットル相当	15.0万リットル相当

## 平成18年度の血漿分画製剤の需給状況(需給計画との比較)

製剤名	換算規格・単位	製造・輸入量		③供給量	自給率(供給倍率)	
		①計	②うち国産原料		17年度	18年度
		上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画		
アルブミン	25%50ml(瓶)	3,558,600 (106.1%) 3,353,100	2,130,800 (114.2%) 1,866,500	3,285,800 (100.9%) 3,255,500	53.7%	56.8%
乾燥人フィブリノゲン	1g	3,300 (106.5%) 3,100	3,300 (106.5%) 3,100	2,800 (112.0%) 2,500	100.0%	100.0%
組織接着剤	接着面積(cm <sup>2</sup> )	10,624,400 (110.9%) 9,581,500	5,399,500 (127.0%) 4,250,000	10,253,900 (110.2%) 9,308,100	45.3%	49.6%
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	297,200 (87.5%) 339,700	121,700 (93.8%) 129,700	306,600 (93.2%) 328,900	39.3%	35.6%
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	46,500 (124.0%) 37,500	46,500 (124.0%) 37,500	38,400 (105.5%) 36,400	100.0%	100.0%
インヒビター製剤	延べ人数(人)	13,200 (107.3%) 12,300	0 0	13,400 (134.0%) 10,000	0.0%	0.0%
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅲ因子	(瓶)	108,400 (67.6%) 160,400	0 0	125,700 (91.6%) 137,300	0.0%	0.0%
トロンビン(人由来)	10000単位(瓶)	34,000 (114.9%) 29,600	34,000 (114.9%) 29,600	44,300 (148.7%) 29,800	100.0%	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	1,494,900 (100.3%) 1,490,800	1,398,400 (102.8%) 1,359,900	1,408,000 (107.0%) 1,315,400	88.6%	91.2%
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	19,500 (89.4%) 21,800	600 (100.0%) 600	19,000 (80.2%) 23,700	2.6%	2.2%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	8,700 (124.3%) 7,000	0 0	9,100 (101.1%) 9,000	0.0%	0.0%
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	98,200 (86.3%) 113,800	0 0	71,400 (94.9%) 75,200	0.0%	0.0%
乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	500単位(瓶)	418,800 (123.0%) 340,600	391,700 (119.2%) 328,600	388,600 (100.2%) 387,800	94.9%	96.3%
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	640 (213.3%) 300	640 (213.3%) 300	230 (76.7%) 300	100.0%	100.0%
人ハプトグロブリン	2000単位(瓶)	44,700 (108.5%) 41,200	44,700 (108.5%) 41,200	41,200 (93.8%) 43,900	46.7%	100.0%
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	340 0	0 0	540 (85.7%) 630	0.0%	0.0%

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。

## 平成19年度需給計画の上半期（4月～9月）の実施状況（報告）

平成19年度の需給計画の実施状況について、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第26条第3項の規定を踏まえ、以下のとおり報告する。

## 1. 平成19年度に国内において製造され、又は輸入されるべきとした血液製剤の種類及び量の目標と実績（4月～9月）

製造及び輸入量は概ね順調に推移している。

（製造・輸入量実績は、別表の①欄のとおり）

## 2. 平成19年度に原料血漿から製造されるべきとした血液製剤の種類及び量の目標と実績（4月～9月）

国内献血由来の原料血漿からの製造量は概ね順調に推移している。（製造量実績は、別表の②欄のとおり）

## 3. 平成19年度に必要なと見込んだ血液製剤の種類及び量と供給実績（4月～9月）

これまでのところ供給量は概ね順調に推移している。

（供給量実績は、別表の③欄のとおり。）

## 4. 平成19年度の原料血漿確保目標量と実績（4月～9月）

原料血漿の確保は、これまでのところほぼ順調に推移している。

確保目標量 97万リットル

確保量 47万リットル（達成率48.5%）

## 5. 原料血漿の配分について

血液製剤の製造業者への原料血漿配分については、今年度9月末までの原料血漿確保状況からみて、原料血漿の確保量は計画どおり実行できると見込まれる。

## 平成19年度の血漿分画製剤の需給状況(4月～9月実績と需給計画との比較)

製剤名	換算規格・単位	製造・輸入量		③供給量	自給率(供給ベース)	
		①計	②うち国産原料		18年度	19年度(上半期)
		上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画	上段:実績(達成率) 下段:需給計画		
アルブミン	25%50ml(瓶)	1,689,500 (52.2%) 3,236,800	1,070,200 (51.7%) 2,068,800	1,623,200 (49.8%) 3,259,200	56.8%	63.7%
乾燥人フィブリノゲン	1g	1,200 (52.2%) 2,300	1,200 (52.2%) 2,300	1,500 (62.5%) 2,400	100.0%	100.0%
組織接着剤	接着面積(cm <sup>2</sup> )	5,212,200 (48.2%) 10,803,700	2,949,800 (55.9%) 5,275,000	5,124,200 (47.8%) 10,723,300	49.6%	48.2%
血液凝固第Ⅷ因子(遺伝子組換え型含む)	1000単位(瓶)	164,300 (46.7%) 351,900	47,700 (41.7%) 114,500	157,500 (45.9%) 343,000	35.6%	32.2%
乾燥濃縮人血液凝固第Ⅴ因子(複合体含む)	1000単位(瓶)	18,300 (53.4%) 34,300	18,300 (53.4%) 34,300	16,900 (45.6%) 37,100	100.0%	100.0%
インヒビター製剤	延べ人数(人)	7,600 (52.4%) 14,500	0 0	3,100 (59.1%) 13,700	0.0%	0.0%
ヒト血漿由来乾燥血液凝固第Ⅷ因子	(瓶)	68,000 (52.2%) 130,200	0 0	59,600 (50.9%) 117,200	0.0%	0.0%
トロンピン(人由来)	10000単位(瓶)	16,200 (30.1%) 53,800	16,200 (30.1%) 53,800	12,100 (34.8%) 34,800	100.0%	100.0%
人免疫グロブリン	2.5g瓶(瓶)	697,200 (46.2%) 1,509,500	670,700 (46.7%) 1,437,100	716,000 (47.2%) 1,515,900	91.2%	95.8%
抗HBs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	16,600 (55.0%) 30,200	600 (100.0%) 600	8,300 (35.6%) 23,300	2.2%	2.9%
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000倍	4,100 (43.6%) 9,400	0 0	4,600 (53.5%) 8,600	0.0%	0.0%
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	23,200 (31.7%) 73,200	0 0	41,700 (49.3%) 84,600	0.0%	0.0%
乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ	500単位(瓶)	224,200 (54.3%) 413,200	224,200 (55.9%) 401,100	203,800 (46.5%) 438,100	96.3%	97.2%
乾燥濃縮人活性化プロテインC	2500単位(瓶)	0 0	0 0	260 (130.0%) 200	100.0%	100.0%
人ハプトグロビン	2000単位(瓶)	12,600 (28.7%) 43,900	12,600 (28.7%) 43,900	20,700 (47.0%) 44,000	100.0%	100.0%
乾燥濃縮人C1-インアクチベーター	500倍(瓶)	350 (50.0%) 700	0 0	420 (91.3%) 460	0.0%	0.0%

注1. 数値は、製品の規格別に報告された数量を集計し、代表的な規格・単位に換算したうえ、四捨五入により100又は10の整数倍で表示した。

注2. 液状タイプの組織接着剤については、接着・閉鎖部位の面積当たりの使用量を勘案して換算し、インヒビター製剤については、体重50kgの人への投与量を標準として人数で算出した。